

洋書輸入協会会報

VOL. 3

NO. 10

昭和44年10月

理事会及び懇談会報告

9月18日（木）

9月18日懇談会の議事に基づき McGraw-Hill Publications Overseas の Mr. Owens をまじえ、日本出版クラブにおいて13時より懇談会を開催した。出席23社。

席上、夫々より率直な意見が活潑に開陳せられ、双方にとって非常に有益な会合であったと思われる。

終了後引き続き理事会を開催して、討議の結果のまとめを行う。

尚、9月26日の例会は British Week 中のため取りやめることとした。

東海懇談会だより

東海地区懇談会では、9月6日（土）・7日（日）に知多半島先端にある篠島でリクリエーションを兼ねて5社参加のもとに、臨時総会を開催した。

議題は、懇談会規約を再確認し、会員相互の親睦を一層強め、協調して行くこと、大学紛争による影響、業界の情報などを交換し、会を終った。

7日は早朝より釣舟を出し、思わぬ大漁（？）に日頃の疲れも忘れ、また若さを発揮するのはこの時とばかりシーズンはずれの海でひと泳ぎという場面も現われ友好裡に一日を過ごした。

通関委員会報告

東京税関東京外郵出張所より次の事柄に充分注意するよう指示がありましたのでお知らせします。

「セットもの、大量部数ものなど多量に輸入する書籍の通関については、一部未着分ある場合は必ず部分通関で輸入申告をする事」

従って、一枚のインボイスでも実際に入荷したものについて通関をし、残部が入荷したとき同一のインボイスを提出し輸入申告をせねばなりません。

なお、未着分を既着として通関するのは違法であり、処罰をうけますので厳重に注意されるようお願いします。

（丸善 柴田記）

British Week 委員会 武道館報告

そり立つネルソン像とそれを取りまくロンドン風物の大壁画、船の汽笛に始まり、ビートルズの合唱に至るテープが武道館一杯になり渡って、トラファルガル・スクエアの雰囲気をかもし出す中を、プリンセス・マーガレット、スノードン卿を先頭に、開会式に参加した、関係者、名士の会場巡視が始まりました。ブックショップの前に整列してお迎えした各理事に、御丁寧な会釈を賜り一同大感激。その一団の中から突如お買上げ希望者が続出し、店開きは正午からと、のんびりしていた一同は大慌て、理事さんの持金を集めて釣銭を作る騒ぎでした。かくして始った武道館ブックショップの十日間は文字通りハッピーニングの連続。一同くたくた。別棟の科学技術館にもブックショップを開設しましたが、この方は至ってのんびりでした。御繁忙の折柄、土曜、日曜の休養日も捧にふって、心良く店頭に立って下さった、在京全会員の御協力にはたゞと感謝感激あるのみでした。（丸善 関口記）



武 道 館 前 景



Book Shop 風 景



Book Shop 風 景

British Week 委員会 科学技術館報告

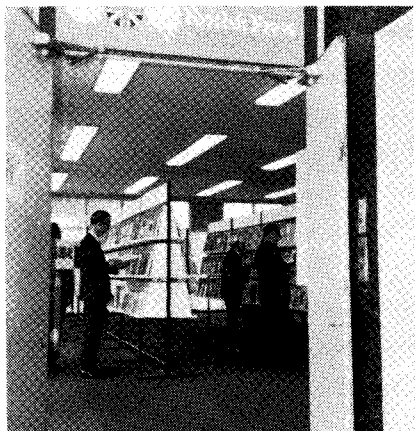
9月25日より10月5日迄の11日間、科学技術館に於いて、英国科学機器、航空産業展が開かれ、これに併せて British Council の書籍・雑誌の展示と共に、代表各社より約500点の英国自然科学書、雑誌サンプルを展示即売しました。機器の展示は極く専門的なものなので、来館者の関心と展示書籍の範囲が、必ずしも一致しない点もあり、売上げとしては、書籍・雑誌コピー・雑誌予約を合わせて103,825円に止まりました。しかしながら、連日熱心にメモを取られる方、購入手続について細かく質問される方々が多く、購買手続きが間接に運ばれる事の多い自然科学・技術関係書の実際の読者に直接接出来ました。之は今展示会の積極面と思われれます。9月26日にはマーガレット王女殿下、スノードン伯が御来場、親しく観覧を賜りました。尚繁忙期にも拘わらず、応援各社の皆様の積極的な御協力を戴きましたことを感謝致します。（紀伊国屋書店・村田英輔記）



科学技術館前景



Book Shop 風景



Book Shop 風景

スペインから帰って

丹 羽 光 男 (成蹊大学)

「スペイン」という言葉を聞くとどんなイメージが浮ぶだろうか? 「闘牛」「フラメンコ」「フランコの独裁と貧しい住民」、誰もがそう思うに違いない。わたくしも出発前はそう考えていた。実際、スペイン旅行についての情報は、日本では皆無に近く、不安のまま羽田を飛びたった。しかし、この不安もスペイン北部の港町サンタンデルのE旅行社の人たちと話しをする中にすっかりとり除かれ、数々の不安が大きな期待となってふくらんでいくのだった。特にわたくしの旅程を作ってくれたセニョリータは、経済的に能率よく、見るべきところは見、訪ねるべきところは訪ねられるよう、ホテル、ペンション、アパートの予約から航空券やレンタカーの手配まで親身になって世話してくれた。この親切は何もここだけのことでなく、全国にあるE社の代理店のどこでも感じられたことであった。

旅行の足としてレンタカーを使ったことは成功したと思っている。スペインは一部の幹線を除いて汽車の便は悪い。限られた期間に、できるだけ多くの人々と語り合い、いわゆる観光コースをはずれた町や村へも足をのばしたいとなれば、自分の車に頼るしかない。しかも5人乗りのわたくしの車は、ヒッチハイクや土地の人々の好目標である。パンブローナの祭へ行く村の人、電気工学を専攻している学生さん、近くの親戚へ行く娘さん、休暇がとれて故郷パリヤドリーへ帰る兵隊さん、エシーハという古い村へ行くお婆さん、嫁さん、息子さんの三人づれ等々、一体何人の人々を乗せてやっただろう。わたくしは、この人たちから各地方の風俗の違い、考え方や言語の相違を教わった。北東のバスク、北西のガリシア、中央部カステイリヤ、南のアンダルシア、東のカタルーニヤなどスペイン各地方の風土の多様性は、そこに住む人々の思想を、生活の知恵を多彩なものとしている。ここへきてはじめてわたくしが今まで知っていたスペインは南のアンダルシアの一部でしかないことを思いしらされたのである。

各地に滞在している間に、本屋にはできるだけ顔を出すようにした。小さな町では書店兼文房具屋が多く、一般書籍・雑誌の他に、教科書、教員教材、文具などを売っているのは日本と似ている。エスパーサとか、アギラールなど大手の出版社や書店はマドリーかバルセロナに集中している。マドリー滞在中の一週間は、よくホセ・アントニオ通りのエスパーサ・カルペの店に通ったが、今年はスペイン

内戦終結三十周年に当り、この関係の書物の出版がかなり目立って多い。

バルセロナは曲りくねった道の旧市街と、整然と区割された広い道の新市街とがはっきりと分れた自由の雰囲気のある町である。書店もかなり多く、特にカタルーニヤ語によって書かれたものが店頭をにぎわしている。美しい噴水のあるカタルーニヤ広場から、コロンブスの像の立つコロン通りまでのパセオ(散歩道)をランブラというが、なにか銀ブラと語呂が似ていて面白い。このランブラには小鳥や花屋と並んで露店の本屋が数軒あって立読みには楽しいところである。

スペインは物価が一般に安い、本の値段は思ったより高い。ユネスコの統計をみると年間約2万点の発行点数があるが、これは他のヨーロッパ諸国に比べそう見劣りする数ではない。しかし、発行部数が少ないのであろう。流通機構の問題もあるかもしれない。日刊新聞は約120点、部数5百10万部であるから、日本と大差ない。日本と同じといえば、翻訳出版の盛なことである。年間約3千点、英仏独伊語の順に、特に芸術、文学関係が多い。社会科学、自然・応用科学がこれに次いでいる。もとより、別の要件で滞在したものの皮相的な観察でしかないが、商取引をするとなれば、バルセロナあるいはマドリーの出版社に限定されよう。それにスペイン人の気質から考えてみても、取引は是非スペイン語を使うべきである。

わたくしたちがスペインをしらないように、スペイン人たちも日本のこと、特に日本の出版界のことは何もしらない。しかし、日本について非常に知りたがっていることは、現地でわたくし自身、ひしひしと身に感じたことである。グラナタ大学の近くの本屋で、川端康成の写真をみたとき、それまで「カラテ」「ヒュー・ヒツ(柔術)」「アイキドオ」の翻訳もののしか見つけれなかったわたくしの心に何か安らぎのようなものをおぼえたのである。かれらは東洋の果て、日本を非常に神秘的な美しい国と信じ、エレクトロニクスとカメラと時計の優秀な技術に驚異の目を見張るのである。しかし、現代の日本、美しいものも醜いものもひっくるめた真の日本の姿を知って欲しいと思うのはわたくしばかりであろうか。このためにも、彼我の距離はジェットを駆って約20時間、いろいろの障害はあるが、活字を通しての文化交流を今後益々活発にしたいものである。

音楽書、楽譜、図書館など

海 老 沢 敏

音楽書、あるいは楽譜というと、書籍・文献等の中では、たいへん特殊なものとなるだろう。日本でも最近は音楽書や楽譜の出版もかなりさかんなものとなってきた。しかし、いわゆる洋楽が日本の音楽の中ではきわめて大きなパーセンテージを占めている現状では、そうした資料は欧米で刊行されたものを中心にせざるをえないといえよう。私のように、ヨーロッパ音楽を中心にして、研究や教育活動に従事しているものにとっては、こうした外国の文献は、いわば食物とおなじように大切なものである。私は学問的にはアプレ・ゲールなので、戦前、音楽関係の資料がどのようにして入手できたものか知らないのだが、大学時代、しばしば神田の古本屋街に通って、音楽書や楽譜を集めたものである。なかでも古賀書店には、音楽の洋書などがたいへん沢山あった。掘り出し物を見つけた時などは、本当に嬉しいものであった。

古本屋をあさるというのは、まあ、その時その時面白いと思ったものを集めるのが中心となり、自分で計画的に集めようという積極的な蒐集とは、いささかちがうので、結局のところ、海外への注文ということが主体となる。自分の勉強も進んでくると、そうした形で本を集めるようになる。今でもそうなのだが、そのような点で、学生のころからアカデミア・ミュージックや日本楽器のお世話に随分となっている。私が東大美学の助手をつとめていたころ、楽譜は本にあらず、したがって図書予算の配分にはあずかることができないといった不便があって、大変に苦勞した覚えがある。特別の予算で、アカデミア・ミュージックからオイレンブルク版の小型総譜を一揃い購入したといった思い出もある。

日本でも、そろそろ、公開の音楽図書館のかたちがいくつか考えられてきている。また芸術大学や音楽大学というところでも、図書館が充実してきつつある。私が所属する大学でも、今度、新しい、かなり規模の大きい図書館を建設したが、それにつけても、図書、楽譜等の資料の蒐集、整備、利用などがきわめて重要である。音楽に関係ある資料についてかぎれば、こうした文献は、国内版だけではとうてい十分なものではない。どうしても欧米のものを入れなければならない。最近では、それがたいへんにスムーズに行っているのは、お世辞ではなしに、アカデミア・ミュージックをはじめとする輸入業者の努力の賜物だろう。私

たちの大学でも、ここ5、6年の文献資料の充実ぶりはまことに目ざましいものだ。それらの文献の大部分がヨーロッパやアメリカから取り寄せられたものだからである。

音楽の洋書や楽譜の購入も、またその選び方などもさまざまである。本屋さんの方から、新着の本を持ってきてもらって、必要なものを選ぶ、いわゆる見計いの形も、新刊本を揃えるためには必要欠くべからざる方策だが、それ以外には、さまざまなカタログのチェックなどが挙げられるだろう。新刊本の場合には、アメリカで出ている雑誌Notesなどでチェックができるが、古本のカタログとなると、蔵書との関係で、重複しないかどうかといった別のチェックが必要ことが多い。古本はカタログでチェックして、いざ注文してみても、かならずしも手に入るものとは限らない。せっかく欲しい本を見つけながら、極東の国日本とヨーロッパという地理的な遠さ、不便さに泣かされることも多いものである。

お金のことになるが、私の大学は私学なので、文部省の私学助成のお世話になることがたいへん多い。図書の充実についても、今までずい分と、助成金、補助金、あるいは研究費といったものをそれにあてることができたのだが、こうして国から頂戴するお金は、処理の仕方がたいへんにむずかしいところがある。たとえば、こまかい品目の書き出し、納入の期限等々。そうした面倒な制約にもかかわらず、業者の方々はたいへんスムーズにことを処理してくれるので、まことにうれしいことである。業者の協力をあてにしなければならなかったら、私たちの大学図書館の音楽資料は、これほど急に、またこれほど完全に集まらなかったのではなかろうか。

私は昨年夏、欧米の図書館、なかんずく音楽関係の図書館を歴訪した。そして、自分の大学の図書館が、かなりよい線にまでたどりついているのに自信を深くした。もちろん、欧米の音楽図書館の水準によりやく達したという意味である。音楽図書館の資料は、複雑多岐にわたるものである。マイクロ・フィルムやマイクロ・フィッシュのほかレコードやテープ、さらにはスライド、なお、別に、楽器など。こうした資料が有機的に組み合わされて、研究者や学生の利用を保っているというのが、私の大学図書館なのである。これからも、欧米の出版社の動向には、注意ぶかく目を光らせながら、いっそうの充実を図りたいというのが、現在の私の心境である。(国立・音大教授)

「ドイツ新刊書展」開く

西独 Börsenverein des deutschen Buchhandels e. V. 主催、出版文化国際交流会及び洋書輸入協会協賛の「ドイツ新刊書展」は、9月16日、国立国会図書館に於ける開会式によって開幕した。出版文化国際交流会野間会長の挨拶、国会図書館河野館長、在日ドイツ大使 F. Krapf 氏の祝辞について、主催者側代表ドイツ書籍販売組合理事、W. H. Stichnote 氏の挨拶があり、御臨席の三笠宮殿下の手によって会場入口のテープが切られた。

会場には参加出版社 473 社の出展になる 4,500 点の書籍が、ドイツから運ばれた軽金属の組立式展示書架に陳列され、さして広くはない会場面積が有効に利用されていた。各分野毎にアルファベットの一字が配され、それによってカタログとの照合が容易になるよう配慮されている点など、さすが展示のベテランのやること、感心させられる所もあった。このカタログには一連番号が附され、展示書籍に書きこまれた番号と対照するようになっているが、肝心の書籍に番号の洩れているものが多い。同展のため来日した R. Weber 氏の語るところによれば、この仕事を担当したフランクフルト大学の学生達がスト騒ぎで仕事が完了出来ぬまま発送の日が来てしまったとのことであった。

参観者の多くから、新刊書展とうたっているがさして目新しいものがないこと、即売をしないこと等に対し不満の声もあったようである。又、会期の一部が26日から開催の英国展と重なり、ユニオンジャックに覆われた東京の空の下では、いさゝか蔭の薄いドイツ書展の感もあった。

同展は26日から会場を東京大学図書館に移し、その後、大阪、名古屋、京都を廻り、以後、出版文化国際交流会の手によって各地方大学を巡回する予定。

洋書輸入協会はこの書籍展に於て、各方面へのPR活動等による後援・協力を行った。(メクレンブルグ 鈴木記)



ドイツ新刊書籍展開幕のテープを切られる三笠宮殿下。
その左国立国会図書館館長。 右 W. H. Stichnote 氏
左端 Krapf 大使 (ドイツ大使館提供)

「国際書籍展・欧州視察団出発」

文化厚生委員会の企画により今春来準備がすすめられていた「フランクフルト書籍展視察を中心とするヨーロッパ旅行」は、その実施時期が業界繁忙の10月にあたった為予定の参加人員に達せず、一時は成否が危ぶまれていたが、文化厚生委員会メンバーの努力により漸く実現、10月1日羽田発SAS南廻り便で訪欧の途にのぼった。

一行は服部（国際書房）団長、石内（東光堂）鶴飼（教文館）副団長を始めとする協会員19名に出版及び関連業者33名を加えた52名で、10月10日―13日のフランクフルト書籍展視察を中心に欧州各都市を廻って25日東京に帰る予定。

この種のツアーは協会として最初の試みであり、今後継続実施するためにも、今回の一回ツアーの成果が期待されている。（メクレンブルグ 鈴木記）



会 員 紹 介

《リプリントから輸入販売へ》

株式会社 ト ッ パ ン

高い原書を安い価格で売ることにより日本の学徒、研究者に、その上日本の文化に貢献し、一方では海賊版を駆逐して国際的信用をとりもどし、広く東南アジアに輸出して外貨を獲得するという大義名分が一寸大げさだがリプリント出版社にはある。このリプリント出版社として、昭和38年9月、「誠意・熱意・創意」の三意主義をかかげる凸版印刷株式会社の出版部、株式会社トッパンが誕生した。最初ワイリー社とリプリント契約を結んだ当初は、わずか一年半足らずの間に116点のリプリント版を出版して、この業界に進出。更にサウンダース社他5社ともリプリント契約を結び、TOPPAN'S INTERNATIONAL EDITION 280余点は、今や東南アジアのすみずみにまで行きわたっている。このようにして洋書界にデビューした当社は、契約出版社等からの要望もあって、数年前から洋書の輸入販売にも着手、将来は洋書の原出版社として全世界に販売したいという夢は大きい。

「英国書籍の輸出入」

印刷・出版経済開発委員会 (Economic Development Committee for Printing and Publishing) が最近発表した小冊子 “Imports and Exports of Print” によれば、1968年才4半期における書籍輸出は、書籍の総販売高の46パーセントであった。印刷物全体の輸出の中に占める書籍の割合は、1962年から統計に子供の絵本を入れないことにしたためもあって、1951年の40パーセントから1968年には51パーセントに上った。

1964年以来の英国の書籍の輸出の伸びは21パーセントであった。これに比較して、ヨーロッパ共同市場の諸国は合計して37パーセント、アメリカは実に78パーセントの伸びを示している。輸出市場における英国のシェアは18.7パーセントである。1968年における英国書籍の最大の買い手はアメリカ (£9,910,000) で、次はオーストラリア (£7,124,000) である。

書籍の輸入は、1966年の £12,028,000 から 1968年には £17,972,000に増大した。この数字の約半分 (£8,129,000) はアメリカからの輸入である。その次がオランダで £2,039,000 である。オランダは伝統的に英国への主要輸出国であるが、最近ではその伸びは止っており、イタリアやスイスが著しく伸びてきている。

(The Bookseller, 1969年9月27日号より)

「パーガモンとリースコの合併難行」

The Leasco Data Processing Corporation は既報の

通りこの春以来英国の Pergamon Press を買収すべく交渉してきたが、諸条件が折り合わず、当初の申し入れを撤回、この八月の再度の申し入れもパーガモン社の同意が得られず、今や相互に不信感もきさしている模様で、きわめて難行し、解決は来春以降に持ち越されそうである。

当初約束されていたパーガモン社の社主、ロバート・マクスウェル氏の将来の地位も今や危うくなっている。リースコ社はすでにパーガモン社の株の38%を取得、一方マクスウェル氏の支配下にある株は28%、その他は個々の株主が所有しているが、パーガモン社は経営権をリースコ社に委ねることを拒否している。

(Bookseller 1969年9月20日号, Publishers Weekly 9月29日号などより)

「エルゼビアとノースホルランドの合併」

オランダのアムステルダム の Elsevier Publishing Co. と North-Holland Publishing Co. がこのほど合併することになった。両社とも英語で出版している世界的な学術出版社である。なお、American Elsevier 社は、この合併の影響を受けない。

当分の間、エルゼビアとノースホルランドの販売組織はそれぞれ別個の活動を続ける模様であり、注文なども従来通りの宛先でよい。

—— 紀伊国屋書店提供 ——

ニュース

- 西独 Springer-Verlag の President, Dr. Bhil Heinz Götze と Mr. Klaus Dymorz 及び Springer-Verlag, New York の Executive Vice-President Mr. Gunter Holtz 9 月下旬来日。
- 英国及び香港より British Week 期間前後にかけ、多数来日あり。
 - ・ Benn Brothers Ltd. の Director, Mr. Jimothy J. Benn
 - ・ Book Development Council の Director General, Mr. Philip Harris
 - ・ Heinemann Educational Books (Asia) Ltd. の Managing Director, Mr. Leon Comber
 - ・ IPC Business Press (Sales & Distribution) Ltd. の Export Manager, Mr. Brian Exley
 - ・ Pan Books Ltd. の Export Sales Manager, Mr. Jock Butler

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店のご案内がございました。お手許の Agent List にご記入願います。

丸善株式会社 ☎272-7211

Bengtsson, Arvid. - Environmental Planning for

Children's Play

(Crosby Lockwood & Son Ltd. London)

¥ 4,860

The Middle East and North Africa 1969-70

(16th Ed.) ¥ 7,560

The International Who's Who 1969-70

(33rd Ed.) ¥ 9,180

The Word of Learning 1969-70 (20th Ed.)

The Europa Year Book, 2 Vols. 1970 (10th Ed.)

Vol. 1: International Organizations, Europe

Vol. 2: Africa, the Americas, Asia, Australasia

(Europa Publications Ltd.)

Physician's Book Compendium. Inaugural

1969-1970 Ed.

(Marcel Dekker, N. Y.) ¥ 11,800

Lima-de-Paria, A. (ed.)

Handbook of Molecular Cytology

(North-Holland, Amsterdam) ¥ 28,800

会員紹介

《Book to Span the East and West》

株式会社 チャールズ・イ・タトル商会

1832年創業の古本屋に生れ、大学で歴史と図書館学を学んだタトル氏は真に本好きである。終戦の秋、CIEの文官として赴任して来た翌日神田で和書の古本を買おうとし、言葉が通じず両方が困ったというエピソードの持主である。1948年夏任期終了と共に講道館ビルの一室を借りてタトル商会東京事務所とし、古本の輸出を始めた。翌1949年7月SCAPから輸入許可が下りたので、高島屋内に書棚二つのさ・やかな店を出し、洋書に飢えた人々を喜ばせた。更に翌1950年にはオランダの写真家ハール氏の作品集「The Best of Old Japan」を出版、次で「Japanese Theatre in Highlight」を出し、現在の「Books on Japan」ブームの先鞭をつけた。以来常に「Books to Span the East and West」をモットーに、日本及びアジアを西洋に紹介することにつとめる一方、御注文とあれば世界中どこからでも、たった一冊の本でも取り寄せるといったサービスで小さいながら特異な存在になっている。

お知らせ

英国図書展示センター開設

British Council (英国文化振興会) 内に英国図書展示センターが開設された。同センターでは、日本の読者向けの専門書を中心に約4,000冊の新刊書を常時展示し、併せて The British National Bibliography, British Books in Print, その他各出版社目録など文献資料の利用もできるようになっております。

この展示センターは、洋書輸入協会と日本書籍出版協会が後援しております。

場 所 千代田区神田 岩波神保町ビル8階 Tel. 264-3721/4

Single Copies Available

全国書店に申込まれて毎号分冊で入手できる外国雑誌はニュース、ファッション、リビング等あらゆる分野を網羅しています。



TIME, LIFE, NEWSWEEK, READER'S DIGEST, U. S. NEWS & WORLD REPORT, DER SPIEGEL, L'EXPRESS, BURDA, ELLE, SEVENTEEN, PLAYBOY, VOGUE, この他約 800 タイトルございます



世界を結ぶ洋販

WESTERN PUBLICATIONS DISTRIBUTION AGENCY (YOHAN)

日本洋書販売配給株式会社(洋販)

☎ 160 東京都新宿区西大久保3-10 TEL 202-4461 (振替東京95014)

昭和44年10月 通巻第30号 洋書輸入協会

編集者 寺久保一重

☎ 103 東京都中央区日本橋江戸橋1-15-5 藍沢ビル302号室

☎ 271-6901

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル

☎ 371-5329